

さいたま市立東岩槻小学校 学校だより 5月号



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和6年4月26日(金)
第2号 発行責任者 川添 倫義
在籍児童数154名
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

後押しの姿勢

校長 川添 倫義

「馬を水辺に連れていくことはできるが、水を飲ませることはできない。」というイギリスのことわざがあります。私の家にはマルチーズがいますが、ケージの水が減ってきているからと新鮮な水に入れ替えても、すぐに飲んでくれるわけではありません。紹介したことわざは、人をやる気にさせることの難しさをたとえたものですが、教師や親が子どもを育てるうえで、心に留めておきたい言葉です。

教師や親は子どもに対して、成長の機会や環境を与えることはできるが、それを活かすかどうかは本人のやる気次第です。子どもに問題集をたくさん買ってあげても子どもにやる気がなければいつまでも本棚に飾ってあるだけ、ということは多くの親が経験することではないでしょうか。

ある協会の役員がいろいろとイベントを行ってもなかなか人が集まらなると悩んでいた時、自分の欲していることをもとに考えるのではなく、相手（観客）の欲している環境は何であるかをつかむために相手（観客）の観察をもとに考えるようにしたところ、よい変化につながったということです。「サラブレッドの優れた能力を引き出すのは騎手次第である。」とは競馬のジョッキーである武豊氏の言葉です。乗馬の世界では、「上達する最大の秘訣は誰よりも馬を好きになること」と言われているそうです。

対象を観察するためには、対象を好きになる、言い換えれば、対象を尊重するということがと思います。武豊騎手は、サラブレッドの目、しぐさ、動きを見て、今、どういう気持ちや精神状態かというのを観察し、性格や癖をまで捉えていくようにしているそうです。これは、短時間でできることではなく、長い時間をかけて、対象の存在を尊重する基本姿勢がないとできることはありません。

私は、先生方に「押しつけではなく後押しの姿勢で子どもたちを育ててください。」と伝えています。家庭での生活、学校での生活、地域での生活では、それぞれ子どもたちが成長するために身に付けるべき力が異なっているところはあるけれども、「育てる」という目的は同じです。子どもと向き合い、子どもに意欲的な活動をさせるためには、まさに子どもを尊重することから始まると思います。子どもが自分と異なる考え方を示しても、「そんな考え方もあるのか」「ユニークな視点だな」という捉えからその後の自分のアプローチの仕方を考えていきたいものです。

さいたま市民の日について 5月1日(水)

さいたま市民の日は、郷土であるさいたま市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力あるさいたま市を将来にわたって創っていくことを期する日として制定されました。

【さいたま市の歴史】 さいたま市は、2001(平成13)年に、浦和市、大宮市、与野市がいっしょになって誕生しました。2005(平成17)年には岩槻市がさいたま市に加わり、全10区となりました。

【市の歌】

【市のシンボル】

【市の伝統産業】

・希望(ゆめ)のまち
・市の木：ケヤキ ・市の花：サクラソウ ・市の花木：サクラ

さいたま市には、「岩槻の人形」や「大宮の盆栽」、「浦和のうなぎ」等、たくさんの魅力があります。改めて、さいたま市の歴史や文化を学び、たくさんの素敵なおところを見つけてみてください。